

令和 8 年度林業アカデミーふくしまの概要

1 研修方針

本県林業を担う人材として、「実践力を有し、安全に現場作業を行える人材」と「地域の森林経営管理を担う人材」を育成する。

2 就業前長期研修

(1) 研修期間

令和 8 年 4 月 6 日から令和 9 年 3 月 5 日

(2) 研修日数及び時間

ア 日数 215 日（土日祝日は原則休講）

イ 時間 1,501 時限（50 分／時限）

(3) 研修生

12 名（定員 15 名）

(4) 講師

林業アカデミーふくしまサポートチームを含む 51 団体及び個人
（県内 38、県外 13）

(7) 研修場所

ア 林業アカデミーふくしま研修施設

イ 実習フィールド（妙見山国有林・郷土郷土国有林・埴町町有林）

ウ 県内各地の森林、苗畑、木材市場、木材加工施設等

3 短期研修

(1) 市町村職員や林業従事者を対象とした短期の研修（17 講座）

(2) 内容

ア 市町村職員向け

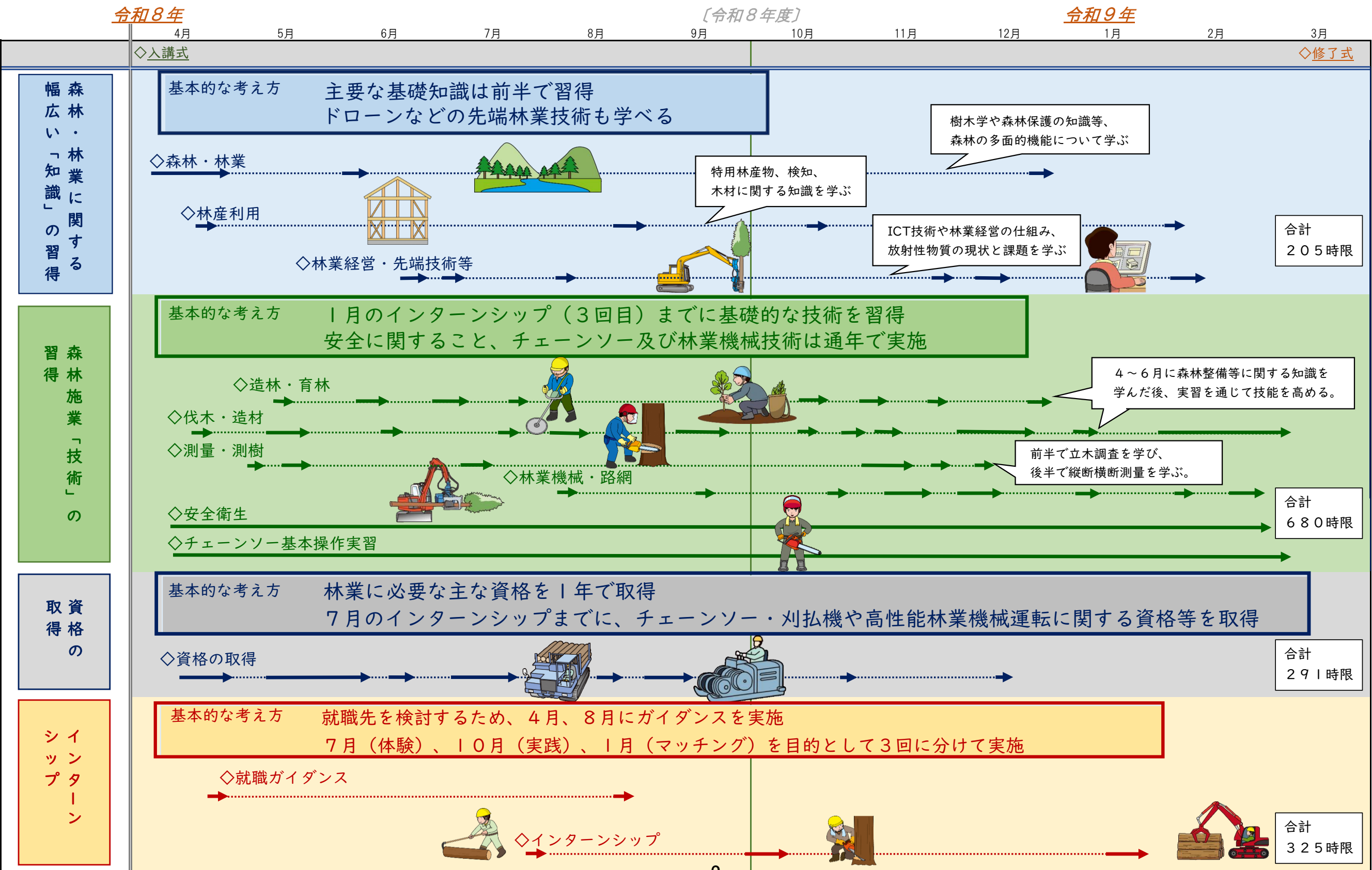
地域の森林管理の重要な役割を担うための知識習得を目指した研修を実施する。

イ 林業従事者向け

専門的な知識や技能・技術の習得を目指した研修を実施する。

林業アカデミーふくしま 長期研修カリキュラムの基本的な考え方と年間スケジュール

基本的な考え方（共通） 「安全」を最優先とした、「基礎知識」と「基礎技術」を習得できるカリキュラム
「適期」の研修を実施するとともに、各研修の「つながり」を意識
「自己啓発」（自主学習）の時間を設け、研修生の主体的な学習を促進
「チェーンソー技術」を通年で実施し、実践的な技術を習得



令和8年度林業アカデミーふくしま短期研修計画及び研修内容

講座名		研修の必要性	主な内容	主な対象者	実施時期 (案)	日数 (日)	定員 (人)	備考	実施状況 (R8.7.25時点)
1	森林・林業の基礎	森林・林業行政の推進を図るため、森林・林業に関する基礎的な知識を幅広く習得した職員の育成を目指す。	森林・林業の基礎知識、優良林業事業体等現地研修、森林・林業施策における市町村の役割 等	市町村林務担当職員等(初任者レベル)	4/22(水)～23(木)	2	20		実施済み
2	森林整備事業の実務	森林・林業行政の推進を図るため、森林整備の実務に必要な知識を習得させ、市町村の森林・林業施策を適切に計画・実行できる職員を育成する。	森林整備事業の概要、森林整備発注業務の実務(積算演習等)、航空レーザー計測の林業への活用	市町村林務担当職員等(森林整備事業の実務担当1～2年目程度を想定)	5/28(木)	1	20		実施済み
3	森林計画制度	森林・林業行政の推進を図るため、森林計画制度の実務に必要な知識を習得させ、市町村の森林・林業施策を適切に計画・実行できる職員を育成する。	森林計画制度の概要、市町村森林整備計画の実行管理に関するポイント(森林経営計画、林地台帳、伐採造林届、森林土地所有者届)、森林境界明確化 等	市町村林務担当職員等(森林計画制度の実務担当1～2年目程度を想定)	6/24(水)～25(木)	2	20		実施済み
4	森林土木事業の実務	森林・林業行政の推進を図るため、森林土木事業(治山・林道等業務)に係る知識及び積算業務、監督業務等に必要な知識を習得させ、森林土木事業の実務ができる職員を育成する。	森林土木事業概要、林道施設災害復旧、監督業務におけるポイント、設計積算演習	市町村林務担当職員(森林土木事業の実務担当1～2年目程度を想定)	5/13(水)～14(木)	2	20		実施済み
5	森林調査の基礎	適切な森林管理・森林整備を推進するため、現地の情報を正確に把握し、それを根拠に施業判断や収穫量、労務量、経費等の積算を行う職員の基礎能力を養う。	立木の樹高と胸高直径の測定方法、各種データや指標等(幹材積、林分材積、形状比、樹冠疎密度、収量比数等)の概要、標準地調査実習、調査データを活用した簡易的な間伐計画・経費計算等	市町村林務担当(初任者レベル)、林業事業体職員(初任者レベル)、等	6/10(水)	1	12		実施済み
6	コンパス測量の基礎	適切な森林整備を推進するため、施業区域の形状や面積を正確に測量し、その測量データを正しく活用できる職員を育成する。	地図と測量の基礎、測量用ポケットコンパスの取扱い、測量手法の解説、測量実習、作図実習、閉合誤差の理解、面積算定方法	市町村林務担当、林業事業体職員(初任者レベル)、等	6/9(火)	1	12		実施済み
7	森林経営管理制度	森林・林業行政の推進を図るため、森林経営管理制度の実務に必要な知識を習得させ、市町村の森林・林業施策を適切に計画・実行できる職員を育成する。	森林経営管理制度と森林環境譲与税の概要、森林経営管理制度に係る各種事務の概要(意向調査、経営管理権集積計画、所有者探索等)	市町村林務担当職員(森林経営管理制度の実務担当1～2年目程度を想定)	7/22(水)～23(木)	2	30		実施済み
8	路網整備と作業システム	適切な森林整備を推進するため、森林整備事業の発注者となり得る市町村職員や、受注者となり得る林業事業体の担当者・現場従事者を対象に、路網整備及び作業システムに関する知識と技術を習得させ、地域における効率的な施業方法を計画・実行できる技術者の育成を図る。	効率的な作業システムの考え方、森林作業道を活かした作業システムの検討実習、ICT等先端技術の活用、路網を活用した森林作業システムの現地検討、コスト計算演習等	林業事業体職員(実務担当者・現場担当者)、市町村林務担当(実務担当者)等	8/27(木)～28(金)	2	20		
9	提案型集約化施業(入門編)	森林を適切に集約し、森林所有者に対して的確な施業提案を行うとともに、森林経営計画の策定を主導できる人材を育成するため、提案型集約化施業の意義や森林施業プランナーの役割を理解するとともに、実務に必要な知識の一部を習得し、将来的に提案型集約化施業を実践できる技術者の基礎を築く。	提案型集約化施業の基礎、森林施業プランナーの業務内容、森林施業プラン作成演習 等	林業事業体職員(集約化施業の初任者:森林施業プランナーを目指す者)等	令和9年1月下旬予定	2	12		
10	提案型集約化施業(発展編)	本県の森林が本格的な利用期を迎えるなか、皆伐・再造林を考慮した新たなプランニング能力を備えた人材を育成するため、提案型集約化施業に取り組む者を対象に、現地見学や講師による解説、意見交換等を通して多様な考え方に触れ、柔軟なプランニング力を養うきっかけづくりを目指す	集約化施業における皆伐再造林の進め方と考え方、林業先進地の事例、集約化施業による皆伐再造林地の県内の事例(現地)、作業システムの考え方、意見交換等	林業事業体職員等(集約化施業の実務者:現役森林施業プランナー等)	9/10(木)～11(金)	2	12		

令和8年度林業アカデミーふくしま短期研修計画及び研修内容

講座名		研修の必要性	主な内容	主な対象者	実施時期 (案)	日数 (日)	定員 (人)	備考	実施状況 (R8.7.25時点)
11	安全な伐木等作業技術 (座学)	林業における死亡災害は、伐木作業時が最も高い割合を占める。ついては、伐木等作業時の労働災害を防止するため、必要な知識・技術を有し、安全に適切な作業を実施できる林業従事者を育成する。	新たに創設された林業技能検定制度の概要と、林業技術者が身に付けておくべき知識の学習の範囲の紹介、伐木作業時に気を付けておくべきポイント等の紹介・解説	林業事業体及び関係団体等の現場管理者、現場作業員等	7/27(月)	1	30		
12	安全な伐木等作業技術 (実技)	林業における死亡災害は、伐木作業時が最も高い割合を占める。ついては、伐木等作業時の労働災害を防止するため、必要な知識・技術を有し、安全に適切な作業を実施できる林業従事者を育成する。	安全かつ正確な伐木等作業技術を習得するための反復練習	林業事業体の現場作業員等	7/28(火) ～29(水)	2	10		
13	最先端の林業技術	森林施業の効率化・省力化を可能にするため、ICT等の最新の林業技術を習得させる。	(※年度により重点とする技術は変動) 大型ドローンによる苗木運搬、3Dレーザースキャナを活用した森林調査、路網設計支援ソフトを使用した線形計画	市町村林務担当職員及び林業従事者 等	12月予定	2	15		
14	ドローン写真測量	森林の管理、整備、調査等の体制強化及び省力化を推進するため、ドローン写真測量の仕組みと流れ(自動飛行・撮影および解析によりオルソ画像を作成)を理解できる人材を育成する。これにより、今後、林業の各分野においてドローン写真測量を効果的に活用できる人材の拡充を図る。	ドローン写真測量の定義と流れ、自動飛行計画及び撮影、オルソ画像及び三次元点群の作成、オルソ画像の活用例	市町村林務担当職員及び林業従事者、県造林担当者 等	10/1(木) ～2(金)	2	12		
15	GIS入門	森林・林業のあらゆる業務において地理空間情報の活用は必須となりつつある。本講座ではGIS(地理情報システム)や位置情報の活用に関する有用性や可能性へのイメージを養い、各種業務で効果的に活かすための土台を形成する。	GISを活用する各種業務の例とイメージ(各種データの重ね合わせ、コンパス測量成果の取り込み、スマートフォンへの取り込み 等) ※座学、デモンストレーション、一部体験演習	市町村林務担当職員及び林業事業体職員 等 (GISがよく分からない、どう活用できるのかイメージがわからない方)	10/16(金)	1	10	新規講座	
16	GIS操作	森林・林業のあらゆる業務において地理空間情報の活用は必須となりつつある。本講座では、GISの基本的な知識と技術を、国内および世界的に広く使用されているオープンソースのGISソフトウェア「QGIS」を教材にした実習を通じて習得することを目指す。研修を通じて、各種業務でGISをより高度に活用していくための基礎的なスキルと応用力の土台を形成する。	GISの概要、QGISの基本操作、県が交付する「QGIS版森林GIS」の紹介、レイヤ追加、シンボル・ラベル設定、森林簿CSV結合、結合データの活用(抽出等) 等	市町村林務担当職員、林業事業体職員 等 (基礎的な操作方法を習得したい方)	11/9(月)	1	20	新規講座	
17	森林経営計画の作成	森林経営計画の作成に必要な基礎知識を、演習を交えて体系的に習得するとともに、市町村林務担当者は計画の認定者として、林業事業体職員は計画の作成者として、それぞれの立場から必要な理解と実務的能力の向上を図ることを目的とする。	森林経営計画作成に必要な基礎知識、森林経営計画作成演習(エクセル形式の様式及び森林簿を活用)	市町村林務担当職員(経営計画審査担当)及び林業事業体職員(経営計画作成担当) 等	11/19(木)	1	20	新規講座	
計						27	295		

□ 令和 8 年度（第 5 期）就業前長期研修生について

1 概要

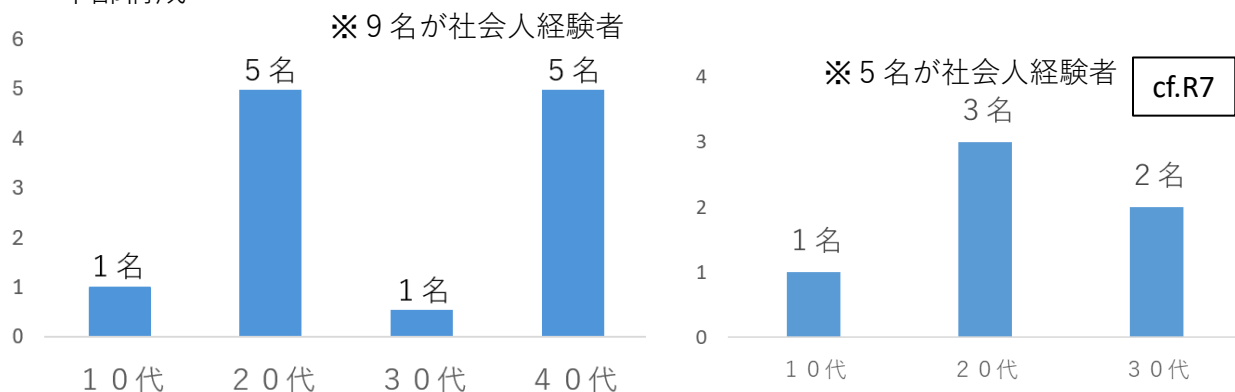
- ・ R8は、高卒 1 名、高専卒 1 名、専門学校卒 1 名で他 9 名は社会人経験者。社会人経験者は、22才～48才と世代の幅が広い。
- ・ R7は 8 割強が中通り出身者で、特に郡山市などの県中方部が多い。
- ・ 入講動機は、家業との関連は 1 名と少なく、森林・林業への興味による入講が 8 割強と大半を占める。

2 研修生について

(1) 人数 12 名（男性 11 名、女性 1 名） cf. R7 6 名（全員男性）

(2) 年齢、出身地等

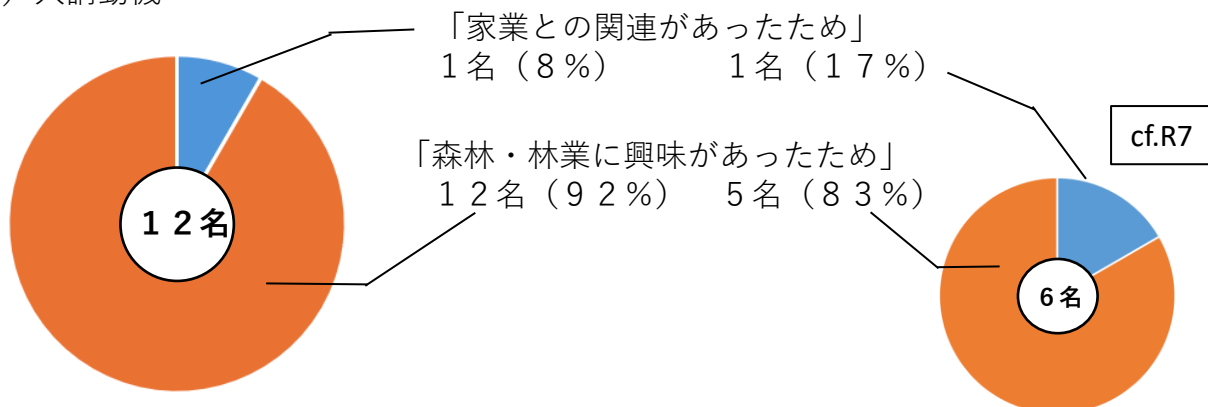
・ 年齢構成



②入講前の居住地方部別

方部	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県外	計
R8	4	1	1	2	1	1	1	1	12
cf.R7	1	3	1	-	1	-	-	-	6

(3) 入講動機



令和八年度第五期生の紹介

あさくら まなぶ
朝倉 学



私が林業アカデミーふくしまに入講した理由は、日本の四季を感じながら自然と深く関わる仕事に魅力を感じたからです。もともと山や森林が好きで、伐採・植林・育林というサイクルを通じて自然環境を守りながら働ける林業に関心を持つようになりました。特にオープンキャンパスで実際の伐倒作業を見学し、その迫力に強く魅力を感じました。

林業は木材生産にとどまらず、災害防止や二酸化炭素吸収といった環境保全においても重要な役割を担っている点にも惹かれています。林業アカデミーふくしまでは、未経験から基礎・実践を体系的に学べる環境が整っており、必要な資格取得のサポートも充実しています。また、福島豊かな森林資源を活かした実践的な学びができることも、志望した大きな理由です。

経験豊富な講師の方々から、教科書には載っていない現場ならではの知識や技術を吸収し、将来は地域に長く貢献できる林業従事者になりたいと考えています。

えんどう つよし
遠藤 剛



埼玉県から福島県へUターンするにあたり、再就職先として以前から関心のあった林業に挑戦したいと考えました。もともとキャンプなど自然に触れることが好きで林業に興味を持ち、田村市の林業体験ツアーに参加しました。

ツアーではチェーンソーでの玉切りや伐倒を体験し、今まで感じたことのない緊張感ややり遂げた後の達成感を実感しました。

また、グラブプル操作による丸太の移動では、重機を扱う難しさと同時に楽しさも感じることができました。

これらの経験を通じて林業への関心が一層高まり、森林の中で働く仕事に携わりたいと強く思うようになりました。

アカデミーではチェーンソーと重機の基礎技術や森林に関する知識を身に着け、現場での安全作業を意識しながらより多くの経験を積み重ね、着実に成長していきたいです。

森林資源の循環維持に貢献できる林業従事者を目指し、福島の林業の担い手として活躍できるよう頑張ります。

くき いさ
久岐 伊佐



私はもともと自然が好きで、自然に関わる仕事をしたいと漠然と考えていました。高校で進路活動が始まった際、担任の先生に相談したところ林業アカデミーふくしまを勧められ、「自分がやりたいのはこれだ」と確信し、入講を決意しました。

これからの一年間の研修では、林業に必要な知識・技術・機械操作の基礎をしっかりと身に付けたいと考えています。高校卒業後すぐの入講であり、まだ林業について何も分からない状態で、不安も多いですが、充実した設備を活かし、講師の方々の指導を最大限に活かし、知識と技術を余すことなく吸収し自分のものにしていきたいです。

林業は危険を伴う過酷な仕事です。だからこそ、この研修期間の一日一日を大切にし、どのような厳しい現場でも通用できる技術と精神力を養っていききたいと思います。将来は林業をもっと盛り上げて若い人たちと林業を繋げるような、山を末永く支えていけるような立派な杣人になるために精進していきます。

すずき たけひで
鈴木 武秀



私は前職で林業に関わる仕事をしており、その時に林業アカデミーふくしまの研修を知りました。当初は林業について学ぶ施設があるといったぐらいの認識でしたが、パンフレット等で見たインタビュー等の研修生の笑顔が印象的でした。

あるとき自分の将来についてどのようにするかを考えた時に、今まで関わった産業等で特に興味・関心を惹かれたのが林業だったため、昨年十月の福島県林業祭等に足を運び、事前の説明等を受けた後に長期研修への参加を決めました。

特段技術や資格等を有していなかったため、十を超える様々な資格が取れることや、実習を通して基礎から学べること、インターンシップ等を通じて現場を学べること等がとても魅力的でした。

将来的には、研修で得た知識・技術・資格を活かし、福島の林業について役立つことで地元に貢献していきたいと思っています。

すとう みなみ
須藤 翠



私は幼い頃から森林や水田など、豊かな自然に囲まれて過ごし、今でも地元である福島の豊かな自然が大好きです。この豊かさを守りたいと思い、環境や森林に関係する仕事として「林業」に興味を持ち始めました。そんな中で林業アカデミーふくしまについて知り、長期研修を志望しました。

研修では、森林と環境に関わる知識を確実につけ、チェーンソー等の伐木に使われる機材・重機の安全な操作を学んでいきたいと考えています。特に、近年の日本では異常気象による山地災害などの問題が多々あり、そういった問題を改善・予防するためにも林業アカデミーふくしまで正しい知識を身に着け、森林を正しく管理できるようになりたいと思います。また、林業は他の職業と比べて事故やケガの多い職業なので、使用する機械類の安全な操作方法を学び、自分や他の人が怪我しないような技術や知識を身につけます。

研修後には林業を通して福島の森林や環境の保全に貢献できるよう、一年間精進していきます。

ひるた ひでかつ
蛭田 英勝



私は林業が大好きです。林業を題材とした映画の中でチェーンソーを操り伐倒する姿に心を打たれ、この道に進むことを決意しました。その後ご縁があり林業アカデミーふくしまを紹介していただき、ここで学びたいという思いが一層強まりました。

豊かな森林に恵まれた場所で林業を学べることに大きな魅力を感じています。

アカデミーでは、必要な知識や技術だけでなく、現場を想定した実践的な学びや仲間と互いに高め合える環境にも魅力を感じています。

この一年で特に身に付けたいのは、確実な伐倒技術と高い安全意識です。林業は危険を伴う仕事だからこそ、安全に働ける環境を自らが率先してつくり上げることが重要だと考えています。事故を防ぎ安全な林業を実現することで、この仕事の魅力を多くの人に伝えていきたいと思います。

福島の森林を支える担い手の一人として、着実に成長してまいります。

みやかわ かずひろ
宮川 和大



アカデミーに入講する前は、行政の中で鳥獣被害対策の現場に携わっておりました。

現行の対策や方法論では、どうしても対処療法的にならざるを得ず、根本的なところの問題や課題解決は難しいと考えていた時に、林業アカデミーふくしまの存在を知りました。

森林や山地、里山と呼ばれる環境そのものに対して、自らが直接的に関わりをもてる技術や知識、経験を得られるのではないかと思い、入講いたしました。

人間だけでなく、野生動物を含むあらゆる生態系にとって「より良い森林環境」とはどのようなものかを深く考え、学んでいきたいと思います。そしてその環境づくりの現場において、行政での経験とアカデミーで得る知見を組み合わせ、少しでも貢献できる人材になりたいと考えております。

むらこし みちお
村越 理朗



以前の仕事を退職後、自然に関わる分野で働きたく幾つか候補を考えていました。その中で林業に関心を持つようになったのは、管理が必要な森林が多いことや林業従事者の高齢化など林業の現状を知るにつれ、事業としての将来性があり人材への需要も多いと感じたためです。

しかし、林業に関するスキルのないまま就業することへの不安もあり、林業アカデミーふくしまへの入講を決めました。本研修では林業の幅広い技術と知識を学ぶことが出来るだけでなく、多くの事業体でのインターンシップの機会も用意されているので、自分の希望に添った進路を選ぶことができると考えています。

林業就業後には森林造成・維持の業務に留まらず、以前従事していたSEの経験をスマート林業などICTを活用する分野に繋げていきたいです。森林調査の際にはそのシステムの運用を行ない、取得したデータを蓄積・管理していくことで、適切な森林管理を長期的に継続することに貢献したいです。

もんま まさや
紋間 雅也



林業アカデミーふくしまでの一年間を、林業の基礎から実践までを着実に身につけ、自分自身を大きく成長させる大切な期間にしたいと考えています。

特に伐採作業では、正確で安全な技術の習得はもちろんのこと、立木を切り倒す伐倒や伐り倒した木材を運材する際に様々な重機を運転することから多くの危険が潜んでいます。そのため、安全を最優先に考えた行動を常に意識し、危険を予測しながら作業できる力を身につけたいです。仲間と声を掛け合い、確認を徹底することで無事故での作業を実現し、安全意識の高い林業従事者を目指します。

また、多くの資格を取得できたり、林業に携わる仕事を学べるインターンシップがあったりと恵まれた環境にいるため、積極的に挑戦し知識と技術の幅を広げていきたいです。一年間という短い間ですが一つひとつの経験を大切に、現場で信頼される人材へと成長できるよう努力していきます。

やない しょうや
箭内 祥弥



私が林業を志した理由は、以前から自然に興味があり、森林に関わる仕事として林業を知ったことがきっかけです。

地元双葉郡富岡町の森林は東日本大震災後放置され、太陽光発電によるソーラーパネルが敷き詰められ、自然の景観がなくなりつつあります。林業アカデミーふくしまで知識と技術を身に付け、地元富岡町の森林・景観の維持に貢献することが私の目標です。

アカデミーと林業について調べていくうちに林業の奥深さを知り自分でチェーンソーを持って木を切ってみたいと思うようになりました。学生時代は普通科だったので林業についてはまだまだ未熟で知識もないですが、この一年間の研修で知識と技術を身につけ、その経験を活かして富岡町の林業事業体に就職し、復興にも微力ながら携わりたいです。

やなどり ゆうき
梁取 佑規



私が林業アカデミーふくしまへの入講を決意した理由は二つあります。

一つ目は、父が林業関係の職に就いており、私も父のように林業に携わりたいと思ったからです。

二つ目は、森林が木材資源としての価値だけでなく、水源の保全や災害防止など多くの重要な役割を担っていることを知り、近年深刻化している担い手不足や管理の遅れといった課題解決に自分も関わりたいと考えようになったからです。

林業アカデミーふくしまで専門的な知識と技術を基礎から学び、現場で即戦力として活躍できる人材になりたいと思っています。

今後の目標は、安全で効率的な作業技術を身につけるとともに、地域の森林を適切に管理し、持続可能な林業の発展に貢献することです。また、森林の大切さを多くの人に伝えられる担い手になれるよう、努力していきます。

わたなべ こうじ
渡邊 昊司



私が林業アカデミーふくしまに入講したきっかけは、自分の進路について悩んでいた際に、親からの紹介で林業アカデミーふくしまの存在を知り、見学会に参加して森林を守り育て自然環境や地域社会に貢献する林業という仕事に魅力を感じたからです。

このアカデミーの一年間の研修を通して身につけたいことが二つあります。

一つ目は、安全な作業技術を身につけることです。林業は豊かな自然と向き合い森を育てる仕事ですが、伐採など危険を伴う作業があります。自身の安全を守るためにも、安全意識と正しい作業手順をしっかりと身に付けたいと考えています。

二つ目は、チェーンソーを上手に扱えるようになることです。見学会では研修生がチェーンソーで木を伐る練習風景を見学し、チェーンソーを扱う姿に憧れを感じました。一年間の研修を通して、安全で正確な作業技術を身につけ、福島県の林業に貢献したいです。

研修の様子（令和8年4月から7月）

○4月の研修内容

●森林・林業に関する幅広い「知識」の習得

林業に携わるうえで基本となる知識の習得と、実際の林業の現場視察等を行いました。

森林・林業の基礎知識、特用林産物の知識や森林保護の知識のほか、鉋、鋸などの手道具の扱い方を学びました。また、石川町と須賀川市で間伐及び一貫施業で行われた造林地の現場を視察しました。

●森林施業「技術」の習得

林業労働災害の現状、その防止に関する知識やチェーンソーの基本動作を学びました。また、地図の読み方やコンパスの使い方など、測量の基礎を習得しました。

●資格の取得

「伐木等業務に係る特別教育」及び「刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育」を受講し、資格を取得しました。また、救急法基礎講習も受講しました。

●インターンシップ

同僚や上司と仕事を円滑に進めるためのコミュニケーションスキルを学びました。

また、就職ガイダンスを行い、県内の森林組合や林業事業体でどんな仕事をしているのか、就職先を選ぶ際の留意点などを学びました。



間伐現場を見学する研修生

○5月の研修内容

●森林・林業に関する幅広い「知識」の習得

「森林・林業の基礎」の講義では、林業に従事する上で必要な関係法令や震災後の県内林業の状況、林相毎の森林土壌の特徴を学びました。

●森林施業「技術」の習得

「立木調査」の講義では、樹高や胸高直径を測定し、それを集計するための方法を学びました。

「チェーンソー伐木造材技術」の講義では、丸太をまっすぐ伐る練習、スパイクを使って伐る練習、短い丸太を立てて受け口を作る練習を行いました。

「刈払機の取扱と安全性の追求」及び「チェーンソーの取扱と安全性の追求」の講義では、(株)スチール及びハスクバーナ・ゼノア(株)を講師にお招きし、各メーカーのチェーンソー・刈払機の構造やメンテナンス方法等を学びました。

●資格の取得

「車両系建設機械運転技術」の講義では、林業機械のベースマシンとなる車両系建設機械の技能講習を受講しました。

「走行集材機械、伐木等機械、簡易架線の基礎」の講義では、フォワーダ、フェラーバンチャザウルス、スイングヤーダの操作練習とワイヤー編み（アイスプライス）の実習を行いました。



フォワーダを操作する研修生

○6月の研修内容

●森林・林業に関する幅広い「知識」の習得

「樹木学」の講義では、妙見山実習フィールドで樹木の名前や特徴を学びました。

「林業経営の基礎」の講義では、中通りの林業事業体及び指導林家の方からお話を伺い、地域に根ざした林業経営に対する考えを学びました。

「森林3次元計測技術」の講義では、森林3次元計測システム「OWL」を使った森林調査の方法を学び、輪尺を用いた立木調査との労力の違いを実感しました。

●森林施業「技術」の習得

「造林・更新」「下刈り、つる切り、除伐、枝打ち」「間伐」の講義では、森林整備に関する基礎的な用語や作業の意味等を学びました。また、実際に林齢が異なる林分を観察し、目標林型の考え方や植栽地に自然に侵入する有用木の種類等を教わりました。

「チェーンソー伐木造材技術」の講義では、初めて立木の伐倒を行いました。

●資格の取得

「不整地運搬車運転技術」の講義では、フォワードでの実習に備え、不整地運搬車の技能講習を受講しました。

「救命訓練」の講義では、赤十字救急法救急員養成講習を受講し、三角巾や担架の使い方等を学ぶとともに、演習により要救助者を発見した際の行動を確認しました。

「ロープ高所作業技術」の講義では、高所作業を行うために必要な、ロープ高所作業特別教育を受講しました。



初めての伐倒を経験する研修生

○7月の研修内容

●森林・林業に関する幅広い「知識」の習得

「林業経営の基礎」の講義では、いわき地方の林業事業体と木材市場でお話を伺い、林業経営に対する考え方や木材の流通等について学びました。

●森林施業「技術」の習得

「下刈り」の講義を三日間行いました。平地で作業を行い、後の二日間は現場をお借りして、苗木や切り株のある傾斜地で作業を行いました。



下刈りを行う研修生

●資格の取得

「小型移動式クレーン運転技術」の講義では、木材の積み込み業務などに必要な小型移動式クレーン運転技能講習を受講しました。

「架線集材」の講義では、林業架線作業主任者免許の規程に定められた講習として、はじめの約二週間は学科で林業架線の基礎知識や力学を学びました。

●インターンシップ

最終週の三日間は、県内の森林組合・林業事業体にご協力をいただき、「就業体験（インターンシップ）」を実施しました。終了後は報告会を開催し、それぞれが体験した仕事やご指導いただいたことを全員で共有し学びを深めました。

令和8年度林業アカデミーふくしま短期研修実施実績

資料1-4-1

※受講者数には「申込みがあったがキャンセル又は全日程欠席した者」は含まない。
※受講者数には「全日程のうち一部を欠席した者」を含む。

No	講座名	主な内容 (実績)	実施日 (実績)	日数	定員	受講者数(実績)															
								方部別									所属別				
								合計	充足率	県北	県中	県南	会津	南会津	相双		いわき	県外	市町村	事業体	関係団体
1	森林・林業の基礎	森林・林業に関する基礎知識の習得、 林業現地見学	4/22(水)～23(木)	2	20	11	55%	4	3		1	2	1			6	1	3	1		
2	森林整備事業の実務	森林整備事業の概要、 発注の実務の流れ、 リーザ(PCソフト)を活用した積算演習	5/28(木)	1	20	19	95%	2	3	5	6		3			7	6		6		
3	森林計画制度	森林計画制度の概要、 伐造届・森林経営計画・及び市町村森林整備計画(ゾーニング)に係る演習	6/24(水)～25(木)	2	20	16	80%	2	4	2	4		3	1		7	2		7		
4	森林土木事業の実務	積算書の体系、 監督の留意事項とポイント、 リーザ(PCソフト)を活用した積算演習	5/13(水)～14(木)	2	20	5	25%	1			1		3			4		1			
5	森林調査の基礎	立木調査実習	6/10(水)	1	12	9	75%	2	4		2			1		4		1	4		
6	コンパス測量の基礎	地図と測量の基礎、コンパス測量の原理、 ポケットコンパスの取り扱い、測量実習、作図と閉合誤差の理解、作図(デジタル)、GISへの取り込み	6/9(火)	1	12	9	75%	1	4		3	1				6	1		2		
7	森林経営管理制度	森林経営管理制度の概要、 集約化構想、特例措置、所有者探索、所有者探索ケースワーク	7/22(水)～23(木)	2	30	20	67%	5	9	3	1				2	8	9		3		

27 134 89 66%

令和8年度林業アカデミーふくしま 短期研修 実施状況

1 森林・林業の基礎

実施日	令和8年4月22日(水)～23日(木) 2日間
時間	10時～16時
主な内容	森林・林業に関する基礎知識の習得、林業現地見学
形式	座学、現地見学
会場	林業アカデミーふくしま研修施設(大講義室)(座学) 石川町の山林(現地)
講師	林業研究センター副所長(座学) ふくしま中央森林組合石川事業所長(現地)
受講者	市町村職員等11名

令和7年度からの変更点:

座学部分のWeb聴講を可能とした(Web聴講者2名:受講者数に含む)。
研修資料の一部改良を行った(用語説明追加、最新データへの更新等)。

継続事項:

現地見学を一日目の午後に実施することで、森林施業に関する座学直後に現地見学を実施でき、より効果的な知識の定着に寄与した。



現地見学の様子



座学の様子

受講者アンケート抜粋:

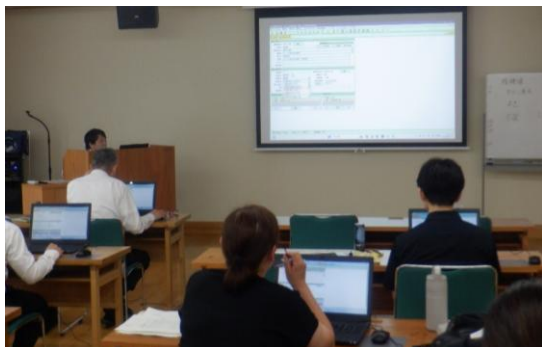
- ・森林・林業の基礎的な用語から森林法など政策の基本理念等が講義にあったため、初心者には助かりました。
- ・現地視察は有益でした(伐木の迫力と機械化)。法律と届出(制度)も良かった。
- ・用語の説明が良かった。
- ・国の森林環境譲与税と県の森林環境交付金の違いについてもっと深く学びたい。
- ・伐採及び造林の届出書についてもっと深く学びたい(受理の仕方や添付書類)。

2 森林整備事業の実務

実施日	令和8年5月28日(木) 1日間
時間	10時～16時
主な内容	森林整備事業の概要、発注の実務の流れ、リーザ(積算用PCソフト)を活用した積算演習、航空レーザ計測成果の活用
形式	座学、演習
会場	林業アカデミーふくしま研修施設(大講義室)
講師	森林整備課主任主査、 アジア航測株式会社(航空レーザ計測成果の活用)
受講者	市町村職員等19名

令和7年度からの変更点:

- ①研修用PCにリーザを導入し、PC持参が困難な受講者への貸出しを可能とした。これにより、申込へのハードルの低減につなげた(積算演習参加者のうち70%が貸出PCを使用)。
- ②一部科目(航空レーザ計測成果の活用)のオンライン聴講を可能とした(Web聴講者9名:受講者数に含む)。



積算演習の様子

受講者アンケート抜粋:

- ・リーザの使い方について、積算根拠を探すところから学べたのでよく理解できた。
- ・役場でリーザの使い方を学べる機会がなかったため、一つ一つ解決を聞きながら実習することができ、とても有意義だった。
- ・ドローンでの葉散布の設計を教えてください。
- ・伐倒駆除、地上散布の設計をリーザでもしたい。
- ・松くい虫被害対策や補助申請について、学べる機会がほしい。
- ・レーザ航測の成果が素晴らしいことがわかった。福島県内の航測成果を公開してほしい。

3 森林計画制度

実施日	令和8年6月24日(水)～25日(木) 2日間
時間	10時～16時
主な内容	森林計画制度の概要、伐採届・森林経営計画・及び市町村森林整備計画(ゾーニング)に係る演習
形式	座学、演習
会場	林業アカデミーふくしま研修施設(大講義室)
講師	森林計画課担当者
受講者	市町村職員、県職員等16名



座学の様子



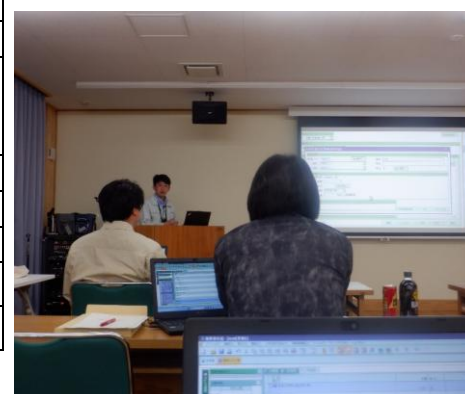
ゾーニング演習と班ごと発表の様子

受講者アンケート抜粋:

- ・森林計画制度の概要、及び伐採届の決まり等を学べてよかった。
- ・伐採届、土地所有者届について、以前より分かった。
- ・演習が多く実務に役立つ。
- ・ある程度理解できた。これから実務で使っていきたい。
- ・伐採届の実務をくわしく研修してほしい。実例を入れて。届出の受理のときに書類をそろえてから受付など細かいところ。
- ・幅広い内容なためかけ足になるとは思いますが、もう少し内容(グループミーティング等でなく)に時間をかけてほしい。

4 森林土木事業の実務

実施日	令和8年5月13日(水)～14日(木) 2日間
時間	10時～16時
主な内容	関連制度等の知識(保安林、林地開発、路網、林道管理)、積算書の体系、監督の留意事項とポイント、リーザ(PCソフト)を活用した積算演習
形式	座学、演習
会場	林業アカデミーふくしま研修施設(大講義室)
講師	森林整備課主任主査、森林保全課主任主査、 農林技術課副課長及び担当者
受講者	市町村職員5名



積算演習の様子

令和7年度からの変更点:

研修用PCにリーザを導入し、PC持参が困難な受講者への貸出しを可能とし、受講ハードルの低減につなげた(積算演習参加者全員(100%)が貸出PCを使用)。

受講者アンケート抜粋:

- ・積算における実務(演習)を行うことができた点が特に良かった。
- ・ミスや事項など、実例を基にしたものを開けてよかった。
- ・写真や事例を交えて学べ、理解しやすい点が良かった。
- ・特に林地開発と治山について学びたかったので、非常にためになった。
- ・今回と同様のテーマで、より経験者向けの研修があると良いと思いました。



座学の様子

5 森林調査の基礎

実施日	令和8年6月9日(火) 1日間
時間	10時～16時
主な内容	立木調査に関する知識、立木調査実習、間伐計画
形式	座学、実習、演習
会場	林業研究センター研修本館(座学、演習等) 敷地内野外(実習)
講師	林業研究センター森林環境部長(森林調査)
受講者	市町村職員等9名

受講者アンケート抜粋:

- ・基本的なプロットの流れを学べ、今後の業務にすぐに役立つ。
- ・標準地調査の時間が多く取られていて良かった。各役割(胸高直径と樹高の測定、野帳記入)をしっかりと体験でき、道具の使い方が他の研修より身についたと思います。
- ・(時間が押し)間伐の演習まで行えなかったのが残念。
- ・林分密度管理図の使い方も学びたかったです。



森林調査実習の様子

課題点:

時間配分の見直し
(標準地調査実習及びその後のデータ集計で時間が押し、間伐計画に関する内容(林分密度管理図、収量比率など)に触れることができなかったため)

令和7年度からの変更点:

- ① 従来の「測量・森林調査の基礎」を、「森林調査の基礎」と「コンパス測量の基礎」の2講座に分割し、それぞれ独立した講座として実施した。これにより、受講者が自身の習得状況や目的に応じて、より柔軟に受講講座を選択できるようになった。
- ② 両講座ともに研修資料を見直し、専門用語の意味や測量機器の名称、測定原理などの基礎事項について理解を深められる内容とした。
- ③ 「コンパス測量の基礎」では、コンパス測量(周囲測量)に内容を特化し、レベル測量およびボール測量を対象外とした。これにより、森林整備に直結する面積算定や閉合比の算出など、これまで十分に扱うことができなかった内容を盛り込むとともに、成果図のGISへの取り込みなど、施業地管理につながる実践的な内容についても触れられる構成とした。

継続事項:

- 両講座ともに、実習では、各班に1名の講師を配置し、受講者一人ひとりに対してきめ細かな指導を行う体制を継続した。

6 コンパス測量の基礎

実施日	令和8年6月9日(火) 1日間
時間	10時～16時
主な内容	地図と測量の基礎、コンパス測量の原理、ポケットコンパスの取り扱い、測量実習、作図と閉合誤差の理解、作図(デジタル)、GISへの取り込み
形式	座学、実習
会場	林業アカデミーふくしま研修施設(実習棟)、敷地内屋外
講師	県中農林事務所森林林業部林業課長、ふくしま中央森林組合石川事業所長、同岩瀬事業所長
受講者	市町村職員、県職員等9名



測量実習の様子

受講者アンケート抜粋:

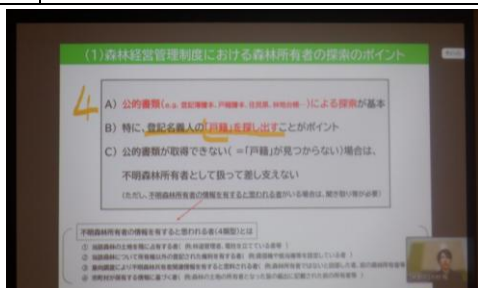
- ・コンパス測量の実測から作図までの一連の流れを知り、経験できたので、受講した目的を達成できたと思います。
 - ・アナログな方法とデジタルなツールの両方に触れることができて良かったです。
 - ・講師の人数と受講者数のバランスが良く、少人数で取り組めたので、より身についた。
- 本日の研修内容を業務で活用したいと思います。とても理解しやすい研修でした。デジタルの時代ですが、アナログ体験ができ、勉強になりました。手書きだけでなく、QGISにより作図等ができて良かったです。

7 森林経営管理制度の実務

実施日	令和8年7月22日(水)～23日(木) 2日間
時間	10時～16時
主な内容	森林経営管理及び集約化の必要性、森林経営管理制度の概要、集約化構想及び一括計画、特例措置、所有者探索、所有者探索ケースワーク
形式	座学、一部演習
会場	林業アカデミーふくしま研修施設(大講義室)
講師	森林計画課主任主査、 林野庁森林利用課課長補佐及び係長、 弁護士(森林・林業に関する造詣が深い方)
受講者	市町村職員、林業事業体職員等21名



座学の様子



講師のオンライン参加の様子

令和7年度からの変更点:

Web聴講を可能とした
(Web聴講者7名:受講者数に含む)

受講者アンケート抜粋:

- ・森林経営管理制度の理解が深まった。
- ・所有者探索の方法が参考になった。
- ・オンライン参加の講師が画面にポイントを記してくれたのがありがたい。
- ・弁護士からの講義は新鮮な視点が多々ありよかった。
- ・森林経営管理制度の基礎知識について勉強しに来たが、あまり触れられなかったように感じた。
- ・国土調査が入っていないところの境界の確認方法について知りたい。
- ・WEB参加で、特に負担なく参加できました。

林業アカデミーふくしま短期研修 改善事項

1 受講者募集方法の見直し

四半期ごとに実施していた受講者募集について、以下のとおり変更した。

- ・ホームページへの募集情報の掲載
- ・月1回程度の定期的な募集案内

これにより、募集期間の長短のばらつきを解消するとともに、これまで案内が届かなかった林業事業体等にも情報提供が可能となり、より多くの林業従事者等へ受講機会を提供できるようになった。

2 WEB 聴講の実施

一部講座において、対面研修の様子をオンラインで配信する「WEB 聴講」を実施した。これにより、遠方からの参加者や業務の都合により来所が困難な受講希望者の受講ハードルを低減し、受講機会の拡大につなげた。

3 積算システム導入パソコンの貸出実施

一部講座に置いて、受講者から例年要望のあった「積算システムを導入したパソコンの貸出」を実現し、受講ハードルの低減及び受講機会の拡大につなげた。

4 GIS 関連講座の追加

受講者から例年要望のあった「GIS」に関する講座を追加した（令和8年10月～11月に実施予定）。

5 ごみ箱の増設

受講者から要望のあった可燃ごみ用のごみ箱を増設し、施設利用者の利便性向上を図った。

令和9年度就業前長期研修計画について

令和9年度のカリキュラム策定に向けて、以下の内容の変更を検討しております。

1 拡充する内容

(1) 国有林施業に関する講義

ア 内容：福島森林管理署様に講師を依頼し、国有林事業の概要、先進的な施業方法等に関する座学及び国有林施業現場の見学を実施する。
(※詳細は今年秋頃に福島森林管理署様と調整予定)

イ 拡充理由：毎年国有林施業をメインに行っている事業体に就業する研修生がいるため、国有林施業に関する見識を深めるための科目を新設する。また、国有林においては各種施業に関する先進的な取り組みを実施しているため、一連の森林施業に係る理解を深める効果も期待できる。

(2) 演習林の整備

ア 内容：林業研究センター敷地内の山林において演習林を整備する。

イ 拡充理由：別紙資料のとおり。

(3) グラップルの活用

ア 内容：グラップルを活用し、研修内容の充実を図る。

イ 拡充理由：別紙資料のとおり。

2 縮減する内容

(1) 自習時間

ア 内容：自習の時間を縮減する。なお、自習の時間は主としてチェーンソーの操作練習を行っているが、研修生の希望に応じてグラップルの実機操作実習も実施できるようにする。

イ 縮減理由：1で拡充する時間数を確保するために、時間数を減じる（年間の総時間数は増加できないため）。減じる内容は「自習」時間であり、講義内容に変更はないが、「自習」時間もスキルアップに重要であるため、昼休みや放課後等、研修時間外にも練習可能な時間を設け、スキルアップにつなげる。

演習林計画について

1 背景及び演習林整備により期待される効果

- (1) 就業前長期研修における実習は国有林や町有林等を実習フィールドとして実施しているが、施業可能な林分が少なく、実習地の確保に毎年苦慮している。
- (2) 林業研究センター敷地内に演習林を整備し実習を確保することにより、円滑な研修の実施を図るとともに、移動時間の縮減による効率的な研修の実施にも寄与する。
- (3) 研修生が森林調査から森林施業までの一連の作業を同一現場で実施することが可能となり、森林整備や林業への理解を一層深める効果が期待できる。
- (4) 林業アカデミーふくしまと試験研究及び実証試験等の連携強化も期待できる。

2 整備計画

- (1) 約 0.6ha の区域を 5 つのエリアに分け、順次施業を実施
- (2) 年度別計画（想定）
 - ア 令和 8 年度
エリア全域の刈払い、境界確認・周囲測量、伐採本数調査、
①エリアの伐採・造材
 - イ 令和 9 年度
①エリアの造材、搬出、地拵え、植栽 ②エリアの伐採、造材
 - ウ 令和 10 年度以降
前年度まで植栽箇所の下刈り、前年度伐採箇所の造材、搬出、地拵え、植栽、
新たなエリアの伐採、造材

林業アカデミーふくしま研修施設



演習林計画箇所



グラップルの導入について

1 背景及び導入理由

- (1) 就業前長期研修カリキュラムにおいて林業機械の操作実習を実施しているが、実機を保有していないため、実習はレンタル機材に依存しており、研修生が機械に触れる機会が限られている。
- (2) 現在、グラップルの実機による操作練習は資格取得後から月 1 回程度にとどまっており、十分な反復練習を行うことができない状況である。このため、操作技術や安全作業に必要な技能の習熟が進みにくいという課題がある。
- (3) また、研修生・修了生からは林業機械操作実習の充実を求める要望が寄せられているほか、林業事業体からも、現場で即戦力となるためには林業機械操作技術の向上が重要であるとの意見がある。
- (4) 林業機械の操作技術は、現場の生産性向上や安全な作業の実現に不可欠であることから、グラップルを導入し、継続的かつ実践的な操作訓練が行える環境を整備する必要がある。

2 導入機種

- (1) 本体：KOMATSU PC30MR-5N0
- (2) 付属品（グラップル）：イワフジ工業(株) GS-40LJV
- (3) バケット容量：0.14m³

3 研修での活用方法

- (1) グラップルを導入することで、講義・実習時だけでなく、自習時間等を活用した反復練習が可能となり、操作技術や安全作業技術の習熟度向上を図る。
- (2) 機械を常時使用できる環境となることで、日常点検や整備などのメンテナンス技術についても実践的に学ぶことができる。
- (3) 実習では、「伐倒・木寄せ・造材・集材」の一連の作業工程を現場と同様の流れで実施し、実践的な研修を展開する。さらに、枝葉の整理や丸太の仕分け、搬送作業など、多様な作業に活用することで研修内容の充実を図る。
- (4) チェーンソーによる伐木・造材実習後の丸太移動作業に活用することで、安全かつ効率的な実習運営が可能となる。
- (5) これらの取組により、就業前の段階で実践的な機械操作技術の習得を促進し、現場で即戦力となる人材の育成につなげるとともに、充実した研修環境の整備による研修生確保にも寄与する。

今後の短期研修計画の策定に向けて

1 受講者の確保

(1) 課題

- ア 受講者数が定員の半数に満たない講座がある。
- イ 受講者の確保のため、個別対応が必要となる講座がある。

(2) 対応案

- ア 対象者を明確にする。一部講座については、対象者を拡充する。
- イ 対象者別（市町村・林業事業体共通、市町村、林業事業体）に受講者募集案内を作成する。（別紙_作成例）
- ウ 講座内容を改善するとともに講座構成を検討する。（下記2、3）

2 各講座内容の改善

(1) 課題

各講座において様々な課題が見られ、研修目的や研修ニーズに応じた内容の改善が必要である。

(2) 対応案

各講座の目的、背景、到達目標、具体的な実施内容及び実施形態等について、関係者による作業班等で検討のうえ研修計画を作成する。

これにより、受講者にとっては講座を選択しやすくなるとともに、講師にとっては講義内容や指導方法が明確となり、講座の効果向上が期待できる。

3 講座の新設・改変・廃止への対応

(1) 課題

- ア 受講者アンケートや関係者から、新規講座の要望・提案が寄せられているが、業界全体のニーズの把握や関係者との意見交換など、さらなる検討が必要である。
- イ 講座の新設や改変、廃止について、関係者による議論や施策展開との調整など、さらなる検討が必要である。

(2) 対応案

- ア 県内の森林・林業関係者への要望調査などにより、新たな研修ニーズを把握する。
- イ 要望結果及び既存研修について、施策展開との整合を図りながら優先順位を整理し、関係者による作業班等で講座構成を改善し、研修計画を作成する。
- ウ 講座構成の改善は、事業実施、普及指導等との役割分担を明確にしたうえで実施する。